

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年8月7日

【四半期会計期間】 第4期第2四半期(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

【会社名】 アートsparkホールディングス株式会社

【英訳名】 ArtSpark Holdings Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 川上陽介

【本店の所在の場所】 東京都新宿区西新宿四丁目15番7号

【電話番号】 03-6820-9590

【事務連絡者氏名】 取締役 伊藤賢

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿四丁目15番7号

【電話番号】 03-6820-9590

【事務連絡者氏名】 取締役 伊藤賢

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第3期 第2四半期 連結累計期間	第4期 第2四半期 連結累計期間	第3期
会計期間		自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日	自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日	自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日
売上高	(千円)	1,437,632	2,157,480	3,826,206
経常利益又は経常損失( )	(千円)	229,939	4,081	93,621
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失( )	(千円)	226,855	3,045	59,958
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	227,936	3,855	54,204
純資産額	(千円)	2,077,620	2,377,644	2,362,802
総資産額	(千円)	3,549,323	3,707,199	3,969,974
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額( )	(円)	34.14	0.45	9.02
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		0.45	8.99
自己資本比率	(%)	57.4	62.9	58.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	244,832	287,613	672,554
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	256,777	287,077	508,476
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	104,188	11,464	238,659
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	971,745	1,025,711	1,013,710

回次		第3期 第2四半期 連結会計期間	第4期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日
1株当たり四半期純損失金額( )	(円)	24.45	2.12

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第3期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（UI/UX事業）

特定子会社の異動はありませんが、当第2四半期連結会計期間において、当社子会社の株式会社エイチアイが、株式会社U'eyes Designの全株式を譲渡したため、連結の範囲から除外しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成27年1月1日～平成27年6月30日）における我が国経済は、政府による経済対策や日銀の金融政策による金融緩和を背景に、企業収益の改善や個人消費の持ち直しの兆しがみられ緩やかな回復基調が続く一方で、欧州債務問題や中国の成長鈍化等の海外景気下振れリスク、円安を要因とした物価上昇等、景気の先行きについては不透明な状況で推移いたしました。

当社グループは、デジタルによるコンテンツの創作からの利用・活用に至るまでの諸活動を、トータルに支援できる環境の提供を経営理念に掲げ、事業を推進しております。

当連結会計年度におきましては、前期より黒字化したクリエイターサポート事業、前期中に株式会社エイチアイ関西を孫会社化したUI/UX事業を中心に注力し、販売・営業活動の推進や提供サービスの拡充を図っております。また、当社子会社の株式会社エイチアイ（以下、「株式会社エイチアイ」）の事務所移転統合の決定や、連結孫会社株式会社U'eyes Designの株式の譲渡等により、財務等における経営資源の集中と配分を重視し、経営効率向上に努めてまいりました。

その結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は2,157,480千円（前年同期は1,437,632千円、50.1%増）、営業損益は23,356千円の営業利益（前年同期は218,158千円の営業損失）となりました。

経常損益につきましては、支払利息7,467千円、持分法による投資損失7,195千円、為替差損1,986千円を計上したこと等により4,081千円の経常利益（前年同期は229,939千円の経常損失）となりました。純損益につきましては、株式会社エイチアイが保有していた株式会社U'eyes Designの株式譲渡による株式売却益が36,109千円発生しましたが、株式会社エイチアイの事務所移転に伴う費用12,426千円を計上、税金費用12,405千円等により3,045千円の四半期純利益（前年同期は226,855千円の四半期純損失）となりました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

#### <コンテンツソリューション事業>

コンテンツソリューション事業の中心である携帯電話市場におきましては、平成27年3月末で国内携帯電話加入契約数が1億4,783万台（前年比5.9%増）となっております。（社団法人電気通信事業者協会発表「携帯電話・PHS契約数」より）また、平成27年3月末のスマートフォン契約比率は携帯電話端末契約数の54.1%と前年度に比べ7.1%の増加となっております。（株式会社MM総研発表より）

このような経営環境の中、平成27年4月に総合電子書籍ビューア「BS Reader」を利用して、株式会社集英社のコミックが「コマビュー形式」（端末の画面サイズに合わせて画像を1コマずつ表示しスクロールやコマの切り替え時に様々な演出を加えることができる表示方法）で配信が開始されました。

なお、電子書籍ビューア「BS Reader for Browser」が利用されている電子書籍配信サービス数は、平成27年6月末では920サービス超となっております。

以上の結果、総合電子書籍ビューア「BS Reader」を軸として推進するコンテンツソリューション事業の売上高は564,134千円（前年同期比3.8%減）、営業利益は26,365千円（前年同期比17.9%減）となりました。

#### <クリエイターサポート事業>

当第2四半期連結累計期間では、製品ラインナップを整備するため、14年間に渡りご愛顧頂きましたマンガ制作ソフトウェア「ComicStudio」、また、イラスト制作ソフトウェア「IllustStudio」等の販売を終了いたしました。今後は、両ソフトウェアの機能を引き継いだ「CLIP STUDIO PAINT」の更なる研究開発と同時にインターネットを中

心としたサービスの充実を図り、当社グループのソフトウェア群を利用して創作活動を行うクリエイター数を国内外で最大化させることに努めてまいります。この他、VAIO株式会社から発売されたモンスタータブレットPC「VAIO Z Canvas」に「CLIP STUDIO PAINT PRO/EX体験版」がプリインストールされました。

なお、クリエイターの創作活動をトータルに支援するサイト「CLIP」においては、平成27年6月末時点の登録者数は53万人となっております。

以上の結果、売上高は473,808千円（前年同期比34.3%増）、営業利益は72,467千円（前年同期比398.7%増）となりました。

#### <UI/UX事業>

当第2四半期連結累計期間では、「デザインエンジニアリング」をテーマに、自動車（四輪・二輪）関連分野を筆頭に、株式会社エイチアイが開発した、次世代UIオーサリングツール「exbeans UI Conductor（エクスピーンズユーアイコンダクター）」の販売活動に注力すると共に、事務所移転等の構造改革や受託開発及び製品保守サポート案件における製造原価の削減を推進しております。

また、株式会社エイチアイ関西は前連結会計年度の第2四半期から、株式会社U'eyes Designは同第3四半期からそれぞれ孫会社としております。このため、株式会社エイチアイ関西の前第1四半期累計期間分及び株式会社U'eyes Designの前第2四半期累計期間分の売上高は、前第2四半期連結累計期間における当事業セグメントの売上高の合計に含まれておりません。

なお、平成27年6月15日付で、株式会社エイチアイが所有する株式会社U'eyes Designの全株式を譲渡したため、当第2四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。ただし、みなし売却日（平成27年6月30日）までの損益計算書については連結をしております。

以上の結果、売上高は1,109,417千円（前年同期比144.5%増）、営業損益は94,887千円の営業損失（前年同期は293,880千円の営業損失）となりました。

#### <アプリケーション事業>

アプリケーション事業につきましては事業縮小を進めており、売上高は16,086千円（前年同期比80.6%減）、営業損益は735千円の営業損失（前年同期は28,621千円の営業利益）となりました。

## （2）財政状態の分析

### （資産の部）

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べて262,775千円減少し3,707,199千円となりました。この主な要因は、現金及び預金が13,812千円、ソフトウェア仮勘定が158,637千円増加した一方で、受取手形及び売掛金が99,542千円、ソフトウェアが110,999千円、のれんが116,696千円減少したこと等によるものであります。

### （負債の部）

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べて277,617千円減少し1,329,554千円となりました。この主な要因は、短期借入金が72,102千円増加した一方で買掛金が48,297千円、1年以内返済予定の長期借入金が32,607千円、長期借入金が206,332千円減少したこと等によるものであります。

### （純資産の部）

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて14,842千円増加し2,377,644千円となりました。この主な要因は、ストックオプションの行使により資本金が4,814千円、資本剰余金が4,814千円、また四半期純利益の計上により利益剰余金が3,045千円増加したこと等によるものであります。なお、自己資本比率は、62.9%となりました。

## （3）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ12,001千円増加し、1,025,711千円となりました。なお、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、287,613千円（前年同四半期は244,832千円の獲得）となりました。これは主として、子会社株式売却益36,109千円の計上や仕入債務の減少額38,679千円等があったものの、減価償却費の計上276,836千円、賞与引当金の増加額48,154千円、たな卸資産の減少額55,818千円等の資金の増加要因があったことによるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、287,077千円（前年同四半期は256,777千円の使用）となりました。これは主として、子会社株式の売却による収入22,688千円、敷金の回収による収入6,933千円があったものの、ソフトウェア等の無形固定資産の取得による支出309,041千円、有形固定資産の取得による支出6,748千円等があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、11,464千円（前年同四半期は104,188千円の使用）となりました。これは主として、長期借入金の返済による支出89,551千円、短期借入金の返済による支出363,002千円があったものの、新株発行による収入9,628千円、短期借入による収入455,000千円等があったことによるものであります。

この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高は、1,025,711千円となりました。

（4）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

（5）研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、7,878千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年8月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,662,075	6,675,690	東京証券取引所 (市場第二部)	完全議決権株式であり、剰余金の配 当に関する請求権その他の権利内容 に何ら限定のない、当社における標 準となる株式です。なお、当社は種 類株式発行会社ではありません。 普通株式は振替株式であり、また、 単元株式数は100株です。
計	6,662,075	6,675,690		

(注) 1. 平成27年7月1日から平成27年7月31日までの間に、新株予約権(ストック・オプション)の権利行使によ  
り、発行済株式総数が13,615株増加しております。

2. 「提出日現在発行数」欄には、平成27年8月1日から本四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により  
発行された株式数は含まれておりません。

## (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年4月1日～ 平成27年6月30日 (注)1	14,700	6,662,075	4,814	1,007,972	4,814	257,972

(注)1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 平成27年7月1日から平成27年7月31日までの間に、新株予約権の行使により発行済株式総数が13,615株、  
資本金及び資本準備金がそれぞれ4,039千円増加しております。

## (6) 【大株主の状況】

平成27年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	324,000	4.86
川上 陽介	東京都世田谷区	246,400	3.69
三輪 洋照	神奈川県横浜市港北区	210,000	3.15
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1-2-10	199,700	2.99
川端 一生	神奈川県横浜市都筑区	198,135	2.97
楽天証券株式会社	東京都品川区東品川4-12-3	167,300	2.51
ダイワボウ情報システム株式会社	大阪府大阪市中央区本町3-2-5	105,000	1.57
東映アニメーション株式会社	東京都中野区中野4-10-1	101,700	1.52
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1-4	94,900	1.42
高田 裕也	神奈川県川崎市宮前区	80,000	1.20
計		1,727,135	25.92

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成27年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,627,100	66,271	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式。なお、単元株式数は100株です。
単元未満株式	普通株式 32,675		
発行済株式総数	6,662,075		
総株主の議決権		66,271	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己保有株式が70株含まれております。

## 【自己株式等】

平成27年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アートスパークホールディングス株式会社	東京都新宿区西新宿4-15-7	2,300		2,300	0.03
計		2,300		2,300	0.03

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりです。

## (1) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
代表取締役社長		川端 一生	平成27年4月1日
取締役		星 和彦	平成27年4月1日

## (2) 役員の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
代表取締役会長兼社長	取締役会長	川上 陽介	平成27年4月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年1月1日から平成27年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,086,746	1,100,559
受取手形及び売掛金	880,145	780,603
製品	13,135	4,944
仕掛品	63,502	31,545
原材料及び貯蔵品	60,899	37,323
その他	126,707	155,841
貸倒引当金	16,381	13,738
流動資産合計	2,214,755	2,097,080
固定資産		
有形固定資産		
建物	125,714	100,865
減価償却累計額	85,389	84,758
建物(純額)	40,325	16,107
工具、器具及び備品	241,945	216,712
減価償却累計額	210,718	197,602
工具、器具及び備品(純額)	31,227	19,109
有形固定資産合計	71,552	35,217
無形固定資産		
ソフトウェア	917,595	806,596
ソフトウェア仮勘定	241,832	400,470
のれん	134,174	17,477
その他	32,774	31,833
無形固定資産合計	1,326,376	1,256,378
投資その他の資産		
投資有価証券	111,991	94,474
敷金及び保証金	201,394	180,576
その他	38,424	39,210
投資その他の資産合計	351,810	314,262
固定資産合計	1,749,740	1,605,857
繰延資産	5,478	4,261
資産合計	3,969,974	3,707,199

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	211,822	163,525
短期借入金	406,214	478,316
1年内返済予定の長期借入金	151,798	119,191
未払法人税等	23,978	16,453
返品調整引当金	3,149	888
賞与引当金	83,656	131,810
その他	360,599	253,291
流動負債合計	1,241,218	1,163,476
固定負債		
長期借入金	276,203	69,871
退職給付に係る負債	80,443	86,933
繰延税金負債	1,275	1,242
その他	8,031	8,031
固定負債合計	365,953	166,078
負債合計	1,607,172	1,329,554
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,003,158	1,007,972
資本剰余金	482,285	487,099
利益剰余金	832,467	835,512
自己株式	958	1,429
株主資本合計	2,316,952	2,329,155
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,296	1,558
その他の包括利益累計額合計	1,296	1,558
新株予約権	34,142	36,111
少数株主持分	10,410	10,818
純資産合計	2,362,802	2,377,644
負債純資産合計	3,969,974	3,707,199

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)
売上高	1,437,632	2,157,480
売上原価	1,105,852	1,482,564
売上総利益	331,779	674,915
返品調整引当金戻入額	8,292	3,149
返品調整引当金繰入額	11,070	888
差引売上総利益	329,001	677,176
販売費及び一般管理費	547,159	653,820
営業利益又は営業損失( )	218,158	23,356
営業外収益		
受取利息	442	188
受取配当金	2	347
その他	1,953	465
営業外収益合計	2,397	1,001
営業外費用		
支払利息	4,237	7,467
為替差損	3,374	1,986
持分法による投資損失	2,773	7,195
その他	3,792	3,628
営業外費用合計	14,178	20,276
経常利益又は経常損失( )	229,939	4,081
特別利益		
負ののれん発生益	13,849	-
新株予約権戻入益	421	145
子会社株式売却益	-	36,109
その他	46	-
特別利益合計	14,317	36,254
特別損失		
投資有価証券売却損	-	10,546
投資有価証券評価損	1,027	-
事務所移転費用	-	12,426
その他	-	1,364
特別損失合計	1,027	24,337
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	216,649	15,998
法人税等	10,361	12,405
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失( )	227,011	3,593
少数株主利益又は少数株主損失( )	155	547
四半期純利益又は四半期純損失( )	226,855	3,045

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	227,011	3,593
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	925	262
その他の包括利益合計	925	262
四半期包括利益	227,936	3,855
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	227,781	3,307
少数株主に係る四半期包括利益	155	547

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	216,649	15,998
減価償却費	271,862	276,836
株式報酬費用	4,171	2,114
新株予約権戻入益	421	145
貸倒引当金の増減額( は減少)	6,209	2,331
賞与引当金の増減額( は減少)	-	48,154
返品調整引当金の増減額( は減少)	2,778	2,261
退職給付引当金の増減額( は減少)	2,206	-
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	-	6,490
受取利息及び受取配当金	444	536
支払利息	4,237	7,467
為替差損益( は益)	412	-
持分法による投資損益( は益)	2,773	7,195
負ののれん発生益	13,849	-
投資有価証券評価損益( は益)	1,027	-
投資有価証券売却損益( は益)	-	10,546
子会社株式売却損益( は益)	-	36,109
売上債権の増減額( は増加)	274,488	46,760
たな卸資産の増減額( は増加)	11,055	55,818
仕入債務の増減額( は減少)	63,232	38,679
その他	3,613	83,713
小計	255,710	313,604
利息及び配当金の受取額	1,798	548
利息の支払額	4,714	8,067
法人税等の還付額	-	1,894
法人税等の支払額	7,962	20,366
営業活動によるキャッシュ・フロー	244,832	287,613
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	1,836	1,811
定期預金の払戻による収入	100,062	-
有形固定資産の取得による支出	11,395	6,748
有形固定資産の売却による収入	237	-
無形固定資産の取得による支出	397,832	309,041
無形固定資産の売却による収入	280	-
貸付金の回収による収入	21,109	900
投資有価証券の売却による収入	-	3
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	33,846	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	22,688
差入保証金の差入による支出	1,250	-
敷金の回収による収入	-	6,933
投資活動によるキャッシュ・フロー	256,777	287,077

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	200,000	455,000
短期借入金の返済による支出	200,000	363,002
長期借入金の返済による支出	109,704	89,551
株式の発行による収入	5,675	9,628
自己株式の取得による支出	160	471
少数株主への配当金の支払額	-	140
財務活動によるキャッシュ・フロー	104,188	11,464
現金及び現金同等物に係る換算差額	412	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	116,545	12,001
現金及び現金同等物の期首残高	1,088,291	1,013,710
現金及び現金同等物の四半期末残高	971,745	1,025,711

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の変更)

平成27年6月15日付で、株式会社エイチアイが所有する株式会社U'eyes Designの全株式を譲渡したため、当第2四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。なお、みなし売却日(平成27年6月30日)までの損益計算書については連結しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日至平成27年6月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日至平成26年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日至平成27年6月30日)
給料手当及び賞与	155,683 千円	155,957 千円
退職給付費用	4,127 千円	2,641 千円
貸倒引当金繰入額	5,681 千円	2,326 千円
賞与引当金繰入額	8,857 千円	24,222 千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日至平成26年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日至平成27年6月30日)
現金及び預金	1,108,760 千円	1,100,559 千円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	137,014 千円	74,847 千円
現金及び現金同等物	971,745 千円	1,025,711 千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンテンツ ソリューション事業	クリエイ ターサポ ート事業	UI/UX事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	551,546	352,502	453,765	82,779	1,440,593	2,961	1,437,632
セグメント間の内部売上高 又は振替高	35,000	224	-	-	35,224	35,224	-
計	586,546	352,726	453,765	82,779	1,475,817	38,185	1,437,632
セグメント利益又はセグメン ト損失( )	32,111	14,531	293,880	28,621	218,616	457	218,158

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

第1四半期連結会計期間より、株式会社エイチアイが、株式会社エイチアイ関西の株式を取得し子会社化したことに伴い、UI/UX事業において負ののれん発生益13,849千円を特別利益に計上しております。

また、平成26年4月15日付で株式会社エイチアイは、株式会社U'eyes Designの株式を取得し、子会社化したことにより、UI/UX事業においてのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において125,778千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンテンツ ソリューション事業	クリエイ ターサポ ート事業	UI/UX事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	558,168	473,808	1,109,417	16,086	2,157,480	-	2,157,480
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,965	-	-	-	5,965	5,965	-
計	564,134	473,808	1,109,417	16,086	2,163,445	5,965	2,157,480
セグメント利益又はセグメン ト損失( )	26,365	72,467	94,887	735	3,210	20,146	23,356

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

平成27年6月15日付で株式会社エイチアイが、株式会社U'eyes Designの株式を売却したことにより、UI/UX事業においてのれんが100,622千円減少しております。

(企業結合等関係)

事業分離

(子会社株式の売却)

当社は、平成27年6月15日付で、株式会社エイチアイの所有する株式会社U'eyes Designの全株式を、株式会社U'eyes Designの代表取締役役に譲渡いたしました。

1. 事業分離の概要

(1) 分離先企業の名称

株式会社U'eyes Design

(2) 分離した事業の内容

コンピュータ機器・装置・システムの企画、開発、設計、デザイン及びコンサルタント

(3) 事業分離を行った主な理由

当社グループのUI/UX事業において、事業活動の強化を目的に株式会社U'eyes Designの株式60.6%を取得し孫会社化しましたが、今後の出資関係について両社間で慎重に検討しました結果、資本関係に縛られず相互の経営・事業戦略に応じて連携をとっていくことが、両社にとって有益との判断をいたし、株式会社エイチアイが保有する株式会社U'eyes Designの全株式を譲渡することを決定いたしました。

(4) 事業分離日

平成27年6月15日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金のみとする株式譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

子会社株式売却益 36,109千円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債

流動資産 84,710千円

固定資産 44,829千円

資産合計 129,540千円

流動負債 75,731千円

固定負債 150,541千円

負債合計 226,272千円

(3) 会計処理

株式会社U'eyes Designの連結上の帳簿価額と売却価額との差額を子会社株式売却益として特別利益に計上しております。

3. 分離した事業が含まれていた報告セグメント

UI/UX事業

4. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

売上高 263,441千円

営業損失 9,815千円

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は 四半期純損失金額( )	34円14銭	0円45銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額( )(千円)	226,855	3,045
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額( )(千円)	226,855	3,045
普通株式の期中平均株式数(株)	6,644,841	6,649,650
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		0円45銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
(うち支払利息(税額相当額控除後)(千円))		
普通株式増加数(株)		75,885
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 8 月 7 日

アートスパークホールディングス株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 新 居 伸 浩 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石 井 広 幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアートスパークホールディングス株式会社の平成27年1月1日から平成27年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年1月1日から平成27年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アートスパークホールディングス株式会社及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。